



藤森 宗徳
千葉県医師会会長

日本一魅力的な 「健康県ちば」を つくりよう！

森田 健作
千葉県知事



藤森 このたびは千葉県知事ご就任おめでとうございます。まずは、森田知事が目指す千葉県の今後の目標や特色などからお聞かせ下さい。

をいただいております。この場をお借りして、改めて感謝申し上げます。

藤森 「健康県ちば宣言プロジェクト」は、県民一人ひとりが健康になることから始めて、県全体を健康にしていくところ。そして、それにより県外からも高い評価を得られるような魅力ある千葉県を作っていくという点も目的の一つなんですね。個々の健康が一番基本ですから、一人ひとりが健康の大切さを自覚しないといけない。自分の健康を守るために何をやるか、それをオープனに宣言していただき、それに向けて努力するというのが一番大事だと思うんです。森田知事も健康宣言を出していただきましたが、「早寝早起き、朝食前の軽い運動」でしたでしょ？

森田 ええ！ 何しろ私は、朝型なんです。朝は4時から4時半に起き、毎日ではありますのが走っています。また、腹筋や腕立て伏せは毎日やっています。それが私の健康の基本であると考へています。それと3食しつかり食べることですね。

そのような中、藤森会長のご提案により平成20年からスタートした「健康県ちば宣言プロジェクト」では、県医師会をはじめ医療・福祉団体や企業などの皆様からご協力を賜り、お陰様で1万7千件を超える「健康宣言」のご応募

藤森 是非、知事さんが走ってる姿をテレビでどんどん映して欲しいですね。

森田 よろしければ、いつでも！（笑）私は

健康というのは、二つから成っているという考えを持つています。一つには、運動をしたり、偏らない食事をきちんとすること。そしてもう一つは、ストレスへの対処なんです。運動をして食事もきちんととついても、ストレスをガーンと与えられると不健康になってしまいます。どちらか一方だけでは健康を維持できないんですね。ストレスを100%なくすことはできません。でもストレスを乗り越えていくことはできます。私自身、辛い時は「神様が俺のことを鍛えてくれているんだ」と自分に言い聞かせるようにしています。こう思ふことで100のストレスも50のストレスに半減されるんですよ。二つの健康を維持していくためには、自分の発想を変えることも大きいのかなと思っています。

藤森

そのような心がけによって、元気でハツラツとしているんじゃないですね。そんな知事さんを見て、県民も大いに元気をもらっていると思いますよ。

話は変わりますが、次に千葉県の大きな問題の一つである「医師確保対策」について伺いたいと思います。

森田 医師不足については、今や千葉県だけでなく全国的な問題となっています。県民の皆様が適切な医療を受けられるよう地域の病院

間のネットワークを整えるとともに、医師を育てていくことは大変重要な課題であると考えています。

現在、県では『千葉

県で若手医師を育てよう』という熱い思いから、県医師会や千葉大学などが作った「千葉医師研修支援ネットワーク」への支援や、県医師会を中心となって行っていただいている、より良い研修医環境を作るための「臨床研修医交流会」など、様々な医師確保対策に取り組んでいます。特に

今年度からは、千葉大学のご協力をいただき、新たな医師確保対策として、将来千葉県内で働く医師を育てる目的とした2種類の修学資金貸付制度を創設いたしました。これにより、千葉大学では、23年ぶりに医学部の定員増が図られました。



「千葉に住んだら安心だ」と感じていただき、人も医師も集まつくるような千葉県に…

藤森

情報がしっかりと伝わらないと、評価も得られず人も医師も集まりませんから、明るい知事さんのお力で千葉県の医療の良いところもどんどんアピールしていただきたいですね。「千葉都民」という言葉がありますが、千葉に住みながら、勤務地は東京。買物も東京。病院も東京に行つてしまつ人が多い。これはやっぱり残念なことで、千葉に住んでいることに誇りを持つて欲しいですよね。

森田

医療においても、東京にはない千葉ならではの新たなシステムや制度を導入していくなければならぬないと考えます。「千葉に住んだら安心だ」と感じていただき、人も医師も集まつくるような千葉県にしていくために。これは医療の分野に限ったことではないのですが、諸先生方が英知を集めて何か一つ新しいモデルケースを作り、県も「よし、これをやろう」と実践する。そのようにすることで、モデルケースを知った県外の人々が、「千葉にはこんなに良いものがあった」と全国的に広まります。

こうしたものが何か一つでもあつたう、そこから「どんどん千葉の魅力が伝わっていくだらう」というのが私の考え方なんですね。

藤森

今、県医師会で力を入れておる運動の一
つに「かかりつけ医をつくろう! 良きかかりつけ医になろう!」というものがあります。日常的には近くのかかりつけ医に診てもらじ、必要があつた場合には病院で検査や治療を受けるようになります。そうしなければ病院ばかりが混雑してしまい、病院の勤務医だけが忙しくて辞めてしまいますからね。ですから、かかりつけ医と病院が連携して仕事を分担しながら、患者さんを相互で診てあげることが大切だと思います。

これが「循環型地域医療連携システム」の仕組みですが、この連携がきちんと図れれば、患者さんも安心して医療を受けられます。

森田

まずは身近なかかりつけ医の先生に診ていただき、たとえば難しい手術が必要といったような場合には、専門病院を紹介していくだけ手術を受ける。そしてその専門病院の退院後には、またかかりつけ医の先生にフォローしていくいただく。昔はみんなそつやつて医療を受けていたと思います。

藤森 このシステムを具体的に運用するためのツールとして、千葉県と医師会で各医療機



関への「地域医療連携パス」の普及を進めています。「地域医療連携パス」は、医療機関同士で病状のデータや治療方針を共有するためのもので、各医療機関が作成するカルテ以外に、医療機関同士で共有して使える大きなカルテになります。

たとえば私は糖尿病をもっていますが、専門病院で、こういう検査を受けた、こういう結果だったといったことが全て記載され、このパスをそのままかかりつけ医のところに持つていけば、こういった

「循環型地域医療連携システム」 がきちんと図れれば、 患者さんも安心して医療を受けられます。

森田

この「地域医療連携システム」について検査結果が出たからこ样な治療が必要だということがすぐわかり、適切な治療を受けられる仕組みになっています。これは、一部の医療機関だけではなく全県の医療機関で行うことが必要です。そして次の段階としては、これをIT化していくことです。今は研究段階なのですが、IT化すれば、簡略化され、患者さんが大きな紙のカルテを持って歩かなくて済みますからね。

この全県公用の医療連携パスの活用を進めているのは全国でも千葉県だけで全国初のものです。先日、会議でこのパスを発表したら、県外の方々からも大変注目を浴びました。

森田 この「地域医療連携システム」については、県医師会、県内の病院など多くの医療関係者、さらには福祉関係者の方々にもご賛同いただいております。そして「地域医療連携パス」は、まさにオール千葉県としての協働によって完成したものです。この構築に当たり、県医師会にはチームリーダーとして大変ご尽力いただきました。このシステムを実際に活用していくためには、まずは県民の皆さんに「かかりつけ医をつくることで、皆さんももっとスマートに医療サービスを受けられるようになります。そのため、県と医師会ではこういった取り組みを行っていきます」といった情報を提供し、アナウンスしていくことが大切ですね。

藤森 そうですね。最近はまず大病院に行けば良いと思い込んでる方が非常に多くいます。でも患者さんとしても、いつも混んでる専門病院で待つてるので、日常的には家の近くにあるかかりつけ医に診てもらう方が負担がかかるかもしれません。ですから、県民の方々には良いかかりつけ医を各自で選んでいただき、医者の方々には良いかかりつけ医になる努力をすることが必要になります。患者さんのお医者さんに対する相性ということもあり、遠く離れてるところのお医者さんでも、自分にとって近くのお医者さんより相性が良く、かかりつけ医としてより良いこともありますからね。まず、かかりつけ医と専門病院がしっかりと連携をとることが肝心です。

森田 今年度は、この「地域医療連携システム」を全県に普及していくための大変な年です。効率的に質の高い医療を提供していくために、県医師会と県が協力しながら是非、進めていきましょう！また、医師会ではこういうことをやるから、県としてはこういったことをやつて欲しいと、どんどん提言を賜りたいと思います。

藤森 もう一つ、これは個人的に思つてのことなのですが、千葉県では是非、禁煙を勧めてもいいたいんですね。禁煙する人が増えています。

増えれば、顕著に健康増進につながりますからね。

向きに検討していくかなければならないことがあります。

森田 禁煙については、神奈川県の松沢知事が頑張っていますよね。八都県市の首都圏サミットで受動喫煙の害について松沢知事が話されました。が、それを各県ごとではなく、首都圏全体で、禁煙に向けて取り組んでいくことと、石原東京都知事らと話しているところです。

藤森 県民一人ひとりの健康は何より大事なことですが、トータルで千葉県の健康も大切なことですから、明るい知事さんのお力で、今後も千葉県の魅力を全国にどんどん発信していただきたいですね。

森田 動喫煙というのは大変な害がありますし、前受動喫煙をやめることは、公共施設もそれを見習つと思います。

藤森 なるほど。私は煙草を吸いませんが、受動喫煙というのは大変な害がありますし、前受

千葉は十分、 日本一になれるポテンシャルがあると 私は思っています。



森田 医療の面においても、千葉は十分、日本一になれるポテンシャルがあると私は思っています。これからも県医師会と千葉県が両輪となつて、県民の幸せのために頑張っていきましょう！